

Inoue balloon の開発から臨床使用、保険適応となり日本及び世界中で使用されるまでへの流れを講義いただいた。

新しい治療開発の意義は現存の治療方針を変更させうるものであり、多くの過程を要し、安全性の確保が最も重要であるということであった。

またその開発過程では、

1. 発想(日々の診療の中から)
2. 器具の作成(当然 handmade)
3. 実験(in vitro、動物実験)
4. 臨床応用(倫理委員会、患者への説明)
5. 製品化
6. 普及活動

といった流れに中で色々な苦労があったことを伝えていただきました。

現在は動脈瘤の治療デバイスとしての stent graft を開発されているとのことで、今後さらに非侵襲的な治療が表舞台に登場するものと思われました。

本講義において、必ず患者さんの治療に必ず役立つはずである、という強い信念がすべての面において必要であるということを改めて知らされました。